

5 貨物船「ポリバー号」のバラッド

俺たちやお国の違う七人の水夫 ロンドン波止場に帰ってきて  
ラットクリップ街を 乱暴狼藉 千鳥足  
つぎの航海に雇われる前に 女たちにおごってやろうじゃないか  
俺たちやポリバー号で ビスケー湾の荒波を乗り切ったんだ

俺たちやサンダーランドから レールをどっさり積み込み船出した 5  
けれど積荷がずれて サンダーランドにとんぼ返り  
ふたたびサンダーランドを出港したところで 冬の疾風はやてに出くわした  
七日七晩 デボン近くの 第一灯台あたりまで流された

リベット  
鋌締はぎしぎし緩み 煙突は潮で真っ白  
デッキじゃ石炭 船倉じゃレール 共に荷崩れ起こし世話焼ける 10  
船はエビ獲り籠みみたいに浸水し 平たい荷車みたいによろよると  
俺たちやポリバー号で ビスケー湾の荒波を乗り切ったんだ

一つまた一つと灯台が近づき ちらちらまばたいて俺たちを通してくれた  
一マイルまた一マイルと 俺たちやのろのろ進んだ 燃料も乗組員も足りない  
大波くらって船はぐっと沈み 隔壁一つ飛ばされた 15  
ニフィートばかり左舷に傾き 俺たちややつのことでウルフ灯台を通過した

傷ついたアヒルのようにのろのろと 船は精根尽き果てて  
うねりが来るたび 鍛冶屋の店先みたいにがらんがらんと音をたて  
煙突とマストをぐいっと傾かせ 飛沫しぶきをきって進む  
俺たちやよろめきながらも ポリバー号でビスケー湾を乗り切ったんだ 20

船が縦揺れするたびに いつぶっ壊れるかと賭けをする  
スクリューが空回りするたびに ショックに耐えられるかと危ぶんだ  
酔っ払いのように大波が船の横腹を叩く音を聞いては  
スクリューの軸受けよ壊れるなど 神に祈るだけ

鉄の甲板に投げ出され 船底は石炭の山に踏み場もない 25  
手も足も擦りむけ凍いてついて 何もかもむかむかと嫌気さし

しまいには審判の日まで 突進していきやがれと悪態をつき  
やい この糞つたれめと呪いながら ポリバー号でビスケー湾を乗り切ったんだ

おお見よ 船首は空に向かって突き上げ 嵐よおさまってくれと呻<sup>うめ</sup>いている  
上に下に 前に後ろに 息つく暇とてない 30  
そのときロイド保険会社に払った保険料が ぐいと船の竜骨を掴かみ  
空の星もぐるぐると 死に物狂いの俺たちをさも嬉しげに見やがった

まんじりともできず さりとて起きていても居眠りばかり  
海水がデッキを洗う時 腐食したリベットがポンポンと抜ける音を聞く  
羅針盤はネコが己<sup>おの</sup>がシッポを追うがごと ぐるぐるやけに回るだけ 35  
それがビスケー湾を南に下る ポリバー号船上でのていたらく

いっとき時化<sup>しけ</sup>の凧いだとき うねりに身をばまかせていると  
こちとりゃきつい仕事で頭にきてるってときに こん畜生羨ましいね  
忌々しい定期客船の灯りが 豪華ホテルよろしく通っていく  
水浸しのポリバー号から俺たちやんやと囃すだけ 40

それから大波が甲板の俺たちをなぎ倒したとき 船長が笑って言った  
「おーい貴様ら 輪<sup>わ</sup>っぱがいかれたぞ 船尾<sup>とも</sup>にウィンチを取り付けろ  
言うこと聞かぬ舵の頭<sup>てこ</sup>に挺をかませ とにかく前へ進ませろ」  
こうして俺たちや 綱で引っ張るようにビスケー湾を通ったのさ

腐った鉄板<sup>たば</sup>を束ね タールでひつつけたようなオンボロ船は 45  
潮時よろしく ビルバーオウ港外の砂州を通りぬけた  
船主が積載量オーバー 乗員不足で沈没を謀った このオンボロ船の俺たちは  
神の大嵐をさえぎり 地獄の海と戦ったのだ

俺たちやお国の違う七人の水夫 ロンドン波止場に帰ってきて  
ラットクリップ街を 乱暴狼藉 千鳥足 50  
地獄を見てきた七人の男たち 船主はさぞ嬉しかろうぜ  
俺たちやポリバー号で 無事ビスケー湾の荒波を突っ切ったんだからな

(榊井幹生訳)